

瑞 議 発 第 2 7 4 号

平成 3 0 年 3 月 2 7 日

瑞穂町長 杉浦 裕之 様

瑞穂町議会副議長 下野 義子

厚生文教委員長 村山 正利

「平成 2 9 年度まちなか会議」実施に伴う提言

日頃、議会の活動及び運営に対し、ご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、厚生文教委員会では、昨年 1 1 月 1 8 日、「まちなか会議」を開催いたしました。本年度のメインテーマは、「子育て環境について」とし、サブテーマを「子ども達の安心・安全対策について」と「学力向上対策について」とした上で、住民の方々とグループ討議や意見交換を行いました。その後、まちなか会議で頂いた意見等を踏まえ、当委員会にて協議を重ねて参りました。

協議の結果、厚生文教委員会として、別紙のとおり提言します。

なお、参加された住民から出された意見等の抜粋を添付いたします。

提 言 書

瑞穂町の子育て環境は、地域課題や社会の変化等により年々厳しい状況になっています。

今回の会議には、現在子育てを行っている保護者や関係する方々が参加され、貴重なご意見が多く寄せられました。特に児童・生徒が安心して登下校ができる交通対策が不十分であるとの意見がありました。

次に不審者対策では、町も防犯カメラの設置について施策を講じていますが、満足を得るまでには至っていない事も実感させられました。

また、学力向上対策につきましては、行政に対する意見は少なく、家庭での教育力やコミュニケーションが不足しているなどの意見があり、親に対する行政的な支援を望む声がありました。

当委員会では、これらの意見を精査し協議を重ねた結果、内容の多岐や役割を鑑みて、以下のとおり提言します。

一、 子どもの交通安全対策については、教育委員会を中心に各課で情報共有し、取組の状況の開示に努めること

一、 地域の見守力向上のための施策を図られたい。

一、 小学校の授業で児童の視点で作成された「地域安全マップ」の活用を図られたい。

一、 子ども達の居場所づくりや学習環境づくりを進められたい。

参加者の主な意見

子ども達の安心・安全対策関係

- ・通学路での交通規制がないため、安心して登校ができない。
- ・都道（青梅所沢線）が八高線ガード下で狭くなっており、歩道が通れないだけでなく、大型車はすれ違うこともできない。通行に危険があり、信号機の設置を願いたい。
- ・部活等で遅くなる子供たちの通学路で外灯の暗い通路がある。
- ・スクールゾーン標識の拡大。
- ・人の目が届かない、人が外に居ない。
- ・地域の人が子どもに対して関心が薄い。
- ・歩道に木の枝がはみ出している。（岩蔵街道など）
- ・交通量が多いにも関わらず、通学路が狭い。（一小：旧青梅街道・二小：長岡中通り・三小：栗原新田八高線ガード下、川ロスタンド南西側、瑞中：町道7号線富士原交差点南側）
- ・子ども達の自転車ヘルメット着用率が気になる。
- ・地域の見守力を上げる、子ども達に声を掛けられる地域にするために取り組む。

学力向上対策

- ・学校内のテストだけでなく、外部テスト様式を用いる。
- ・親が忙しいと言うのは、言い訳であり、子供に一日の出来事について声をかけることが大事であり、学力向上にも繋がるのではないか。
- ・フューチャースクールは、やらせっぱなしになっているのではないか。誰がチェックをしているのか。
- ・フューチャースクールを活用しきれていないのではないか。
- ・親子でのコミュニケーション教室の実施。
- ・子供たちが試験慣れ出来るよう、年何回か外部の学力試験を入れてほしい。
- ・家庭学習をしっかりと出来る習慣作りが必要。
- ・学力の高い地域をまねる。
- ・幼保と学校との連携を密にする。